

審査基準の策定について

1. 審査基準の考え方

- (1) 応募事案の審査を行うため、事業の目的との整合性、事業の適格性・計画性合理性、事業者適格性、事業の効果などを審査基準の項目として設定する。

2. 審査の項目

- (1) 石油由来プラスチックの代替素材である再生可能資源への転換及び社会実装化に係る技術実証事業

- ① 代替素材の普及可能量
- ② 代替素材普及に対する課題の解消度
- ③ 代替素材普及に対する確度
- ④ 実証技術の波及効果
- ⑤ 事業計画・スケジュール
- ⑥ エネルギー起源 CO₂ 排出削減量等環境負荷の低減
- ⑦ 経費の妥当性

- (2) プラスチック等のリサイクルプロセス構築・省 CO₂ 化に係る技術実証事業

- ① リサイクルプロセス構築に対する課題の解消度
- ② 実現した場合の循環型社会への貢献の見込み
- ③ 事業終了後の出口戦略
- ④ 実証事業の波及効果
- ⑤ 事業計画・スケジュール
- ⑥ エネルギー起源 CO₂ 排出削減量等環境負荷の低減
- ⑦ 経費の妥当性

3. 審査基準

(1) 石油由来プラスチックの代替素材である再生可能資源への転換及び社会実装化に係る技術実証事業

審査項目	審査の観点	得点配分 (係数)
① 代替素材の普及可能性	○対象としている化石資源由来プラスチックが、代替を図ろうとしている用途において、どの程度使われているか。 ○上記の内、どの程度を代替素材に置き換える予定か。	15 (3)
② 代替素材普及に対する課題の解消度	○代替素材への移行、普及のボトルネックとなっている課題(化石資源由来プラスチックとのコスト差や代替素材の性能、機能の向上など)が技術実証によって、どの程度解消されるか。	25 (5)
③ 代替素材普及に対する確度	○価格競争性や代替素材製品の市場動向が見通せるなど、実証事業終了後の代替促進の確度がどの程度あるか。	20 (4)
④ 実証技術の波及効果	○技術の実証によって、目的としていた用途以外の代替が進むなど、波及効果が期待されるか。	15 (3)
⑤ 事業計画・スケジュール	○事業の計画・スケジュールが具体的かつ実施可能なものであるか。	5 (1)
⑥ エネルギー起源CO2 排出削減量等環境負荷の低減	○社会実装によって実現されるCO2排出量の削減効果、循環資源の循環的な利用の促進効果、エネルギー削減効果、及びその他の環境影響の低減効果がどの程度見込まれるか。 ○上記環境影響低減量に係る評価方法が妥当か。	10 (2)
⑦ 経費の妥当性	○代替素材の普及に係る事業成果との比較で経費が妥当なものか。	10 (2)
合計		100
採点は各項目につき、優：5点、良：3点、可：1点、不可0点、の4段階評価とし、各項目の点数に係数を乗じて得点を算出する。満点は100点とする。		

(2) プラスチック等のリサイクルプロセス構築・省CO₂化に係る技術実証事業

審査項目	審査の観点	得点配分 (係数)
① リサイクルプロセス構築に対する課題の解消度	○本事業の目的にそった課題を的確に把握しているか。 ○その課題解決策が明確に示されているか。 ○課題解決策(手法)が、効率的効果的であるか。	15 (3)
② 実現した場合の循環型社会への貢献の見込み	○リサイクルを通してどのような循環型社会が構築されるか。 ○事業が実現した場合、循環型社会の貢献が的確に示されているか。	25 (5)
③ 事業終了後の出口戦略	○事業終了後、リサイクル品の価格競争性や利用先の市場動向が見通せるなど、実証事業終了後の製品利用の確度がどの程度あるか。	20 (4)
④ 実証事業の波及効果	○技術の実証によって、構築されたプロセスが他方でも進むなど、波及効果が期待されるか。	15 (3)
⑤ 事業計画・スケジュール	○事業の計画・スケジュールが具体的かつ実施可能なものであるか。	5 (1)
⑥ エネルギー起源CO ₂ 排出削減量等環境負荷の低減	○リサイクルの実現によって算出されるCO ₂ 排出量の削減効果、循環資源の循環的な利用の促進効果、エネルギー削減効果、及びその他の環境影響の低減効果がどの程度見込まれるか。 ○上記環境影響低減量に係る評価方法が妥当か。	10 (2)
⑦ 経費の妥当性	○当該事業に係る経費算出は、事業成果との比較で妥当なものか。	10 (2)
合計		100
採点は各項目につき、優：5点、良：3点、可：1点、不可0点、の4段階評価とし、各項目の点数に係数を乗じて得点を算出する。満点は100点とする。		